

検定協会だより

7

令和元年7月
第463号





巻頭のことば

- 1 市民が安全で安心して暮らせる都市さがみはらの実現に向けて

相模原市消防局長 青木 浩

協会情報

- 3 平成30年度の受託評価業務を振り返って

警報設備部
消火・消防設備部
虎ノ門事務所

- 20 第14回検定等技術協議会（全体会議）の会議報告（概要）

業務企画室

- 21 「第19回レスキューロボットコンテスト」への展示ブースの出展について

企画研究部 情報管理課

国際会議報告

- 23 第10回アジア防火検査協議会(AFIC)総会等について

企画研究部 企画研究課

おしらせ

- 33 有効期限を経過した受託評価品目

- 34 協会通信・業界の動き・
消防庁の動き

- 40 検定・性能評価・受託評価数量
(令和元年6月)

- 38 新たに取得された型式一覧

市民が安全で安心して暮らせる 都市さがみはらの実現に向けて

相模原市消防局長
青木 浩



相模原市は戦後生まれの市でありながら、目覚ましい発展を遂げた他に例を見ない都市であります。平成15年に中核市へ移行し、平成18年、19年の4町との合併により清流を育む広大な森林などの恵まれた自然環境を有する都市となりました。平成22年には指定都市となり、県から多くの事務・権限が移譲されたことにより、福祉、教育など市民の皆さまの生活に密着する様々な分野においてサービスの向上が図られ、近年では社会生活に困難を有する子どもや若者に対する支援のほか、子育てに関する施策の充実が図られてきております。また、相模総合補給廠の一部返還や首都圏中央連絡自動車道（圏央道）相模原愛川インターチェンジ、相模原インターチェンジの開通、さらに今後は、リニア中央新幹線の駅が設置されるとともに、2020年東京オリンピック競技大会における自転車ロードレース競技が本市内で開催されるなど、将来の可能性に満ちあふれています。

本市は、消防局1局6課4消防署15分署1出張所1派出所の職員778名、消防団1団6方面隊34分団106部の消防団員1,489名が一体となり、「72万人市民が安全で安心して暮らせる都市さがみはら」の実現に向け、消防活動に取り組んでおります。

さて、本市の火災予防につきましては、子どもたちに将来にわたる防火意識を持ってもらうために、小学校3年生及び4年生を対象とした「少年・少女ファイヤースクール」を行っております。「自分で自分の身を守る子どもになる」をスローガンとして、火災等の危険から身を守る方法や水消火器による消火訓練、119番通報、煙中避難訓練等の体験型授業を実施しています。また、住宅用火災警報器の設置促進や適正な維持管理など住宅防火対策につきましては、平成30年度に本市のホームタウンチームであるノジマステラ神奈川相模原と連携し、火災予防啓発ポスターの共同作成、選手による一日消防署長、ホーム初戦と最終戦に会場で住宅防火に関するリーフレットの配布等を実施しました。さらに、間近に迫った東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、本市においても多数の外国人来訪者等が駅、ホテル、観光施設等を利用する

ことが想定され、外国人来訪者等が安心して訪れることができるよう、効果的な自衛消防体制を構築する必要があります。このことから、外国人来訪者等が利用する施設において、火災、地震等の災害が発生した場合の災害情報や避難誘導などの多言語化や文字等の視覚化を図るため、立入検査等により指導を行っております。

次に、災害につきましては、近年の気象変動により大型化する台風や局地的な豪雨による土砂災害など自然災害が猛威を振るい各地で甚大な被害が発生しているとともに、首都直下型地震や南海トラフ巨大地震等の発生による大規模地震災害が危惧され、広域応援体制がより一層重要となっているところです。このことから本市の災害対応につきましては、市内の米軍施設消防隊や陸上自衛隊との防災訓練をはじめ各種合同訓練を積極的に実施し、大規模災害時においても、迅速かつ的確に対応できるよう連携強化を図っております。また、今後開催される大規模イベントについても万全の警備体制を構築してまいります。

次に、救急出場件数につきましては、高齢化の進行等を背景に年々増加傾向にあり、平成30年中は37,498件で過去最多となり、今後も更に救急出場件数は増加することが予想されております。

このことから救急需要が高い市域の中心の消防署に、日中の時間帯に特化した「日勤救急隊」を創設し、平成31年4月2日に運用を開始しました。この日勤救急隊には3つの特色があります。1つ目は、救急救命士の女性職員等が育児休業期間終了後に、育児等の理由で交替制勤務に戻れないため、新たな職域として毎日勤務の救急隊として、資格及び経験を生かし活躍できる職場を整備しました。2つ目は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向け、外国人傷病者への対応能力向上のため、英会話に長けた職員を配置しました。3つ目は、隊長に指導救命士を配置したことで、救急救命士の資格取得予定の職員や救急救命士等へ、直接指導ができるようになりました。今後も、増加する救急需要への的確な対応や救急業務の高度化を推進してまいります。

近年では、本市におきましても職員の大量退職に伴い、経験の浅い若手職員の割合が急増するなど、職員構成に変化が生じていることから、消防活動の知識や技術の習得と伝承を確実に進めることが肝要であると考えております。この様な認識のもと、引き継ぎ人材の育成に努めながら、市民一人ひとりの生命・財産を守り「市民が安全で安心して暮らせる都市さがみはらの実現」に向け、職員一丸となって業務に取り組んでまいります。

結びに、貴協会のますますのご発展、会員の皆様のご多幸を祈念し、巻頭のことばとさせていただきます。



平成30年度の受託評価業務を振り返って

警 報 設 備 部
消 火 ・ 消 防 設 備 部
虎 ノ 門 事 務 所

はじめに

平成30年度における受託評価業務の依頼状況は以下のとおりです。

1. 依頼状況の概要

区 分	依頼件数 又は個数
品質評価における型式評価・型式変更評価の依頼状況（自主表示対象機械器具を含む）	124
認定評価における型式評価・型式変更評価の依頼状況	59
特定機器評価における型式評価・型式変更評価の依頼状況	2
品質評価における型式適合評価等の依頼状況（自主表示対象機械器具を含む）	9,412,485
認定評価における型式適合評価の依頼状況	2,578,917
特定機器評価における型式適合評価の依頼状況	391,354
品質評価における更新等の依頼状況	1,057
認定評価における更新等の依頼状況	220
特定機器評価における更新等の依頼状況	18
自主表示対象機械器具の型式評価・型式変更評価の依頼状況	73
自主表示対象機械器具の型式適合評価の依頼状況	2,495,519
特殊消防用設備等の性能に関する評価の依頼状況	0
特定機器評価における総合評価の依頼状況	1

2. 品質評価業務関係

2-1. 型式評価・型式変更評価

(1) 補助警報装置及び中継装置

- ・依頼件数は前年度と同様0件でした。

(2) 音響装置

- ・依頼件数は0件で、前年度は1件でした。
- ・不合格は0件でした。

(3) 予備電源

- ・依頼件数は6件で、前年度は0件でした。
- ・不合格は1件でした。

不良内容

ア 構造試験においてセルから液漏れするもの（1件）

(4) 外部試験器

- ・依頼件数は前年度と同様0件でした。

(5) 放火監視機器

- ・依頼件数は0件で、前年度は4件でした。
- ・不合格は0件でした。

(6) 光警報装置及び光警報制御装置

- ・依頼件数は2件で、前年度は3件でした。
- ・不合格は0件でした。

(7) 消火器加圧用ガス容器

- ・依頼件数は前年度と同様0件でした。

(8) 蓄圧式消火器用指示圧力計

- ・依頼件数は1件で、前年度は0件でした。
- ・不合格は0件でした。

(9) 消火器及び消火器加圧用ガス容器の容器弁

- ・ 依頼件数は前年度と同様 0 件でした。

(10) 消火設備用消火薬剤

- ・ 依頼件数は 3 件で、前年度は 0 件でした。
- ・ 不合格は 1 件でした。

不良内容

ア 腐食試験において、質量損失が申請された値を超えるもの（1 件）

(11) 住宅用スプリンクラー設備及び同構成部品

- ・ 依頼件数は前年度と同様 0 件でした。

(12) 特殊消防ポンプ自動車等に係る特殊消火装置

- ・ 依頼件数は 31 件で、前年度は 45 件でした。
- ・ 不合格は 0 件でした。

(13) 可搬消防ポンプ積載車

- ・ 依頼件数は前年度と同様 0 件でした。

(14) ホースレイヤー

- ・ 依頼件数は前年度と同様 0 件でした。

(15) 消防用積載はしご

- ・ 依頼件数は前年度と同様 1 件でした。
- ・ 不合格は 0 件でした。

(16) 消防用接続器具

- ・ 依頼件数は 7 件で、前年度は 23 件でした。
- ・ 不合格は 1 件でした。

不良内容

ア 構造（1 件）

2-2. 型式適合評価・確認評価

(1) 補助警報装置及び中継装置

- ・ 依頼個数は前年度と同様0個でした。

(2) 音響装置

- ・ 依頼個数は3,470個で、前年度の3,810個に対し8.9%減少した。
- ・ 不合格はなかった。

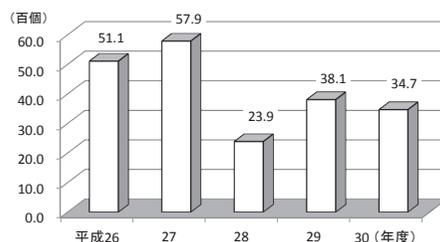


図-1 音響装置

(3) 予備電源

- ・ 依頼個数は268,688個で、前年度の270,124個に対し0.5%減少した。
- ・ 不合格が1件640個でした。

不良内容

ア 低温放電において、10分経過後の電圧値が定格電圧の80%以上85%未満のもの（1件）

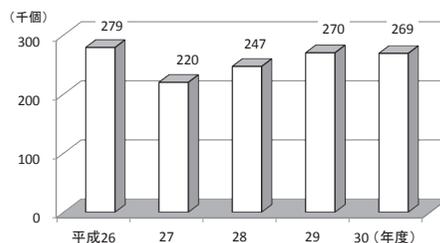


図-2 予備電源

(4) 外部試験器

- ・ 依頼個数は1,095個で、前年度の1,551個に対し29.4%減少した。
- ・ 不合格はなかった。

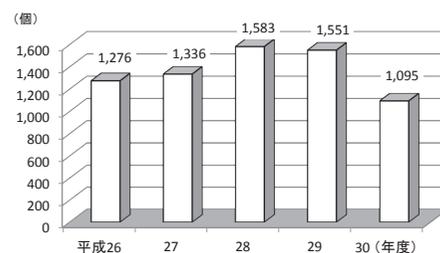


図-3 外部試験器

(5) 放火監視機器

- ・ 放火監視センサーの依頼個数は4,168個で、前年度の2,839個に対し46.8%増加した。
- ・ 放火監視受信装置の依頼個数は20個で、前年度の20個に対し増減はなかった。
- ・ 不合格はなかった。

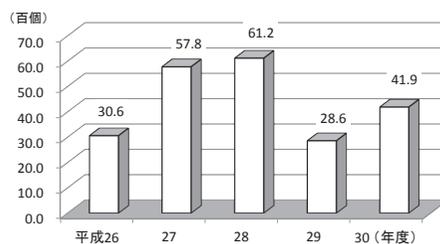


図-4 放火監視機器

(6) 光警報装置及び光警報制御装置

- ・光警報装置の依頼個数は2,004個で、前年度の11,328個に対し82.3%減少した。
- ・光警報制御装置の依頼個数は200個で、前年度の190個に対し5.3%増加した。
- ・不合格はなかった。

(7) 消火器加圧用ガス容器

- ・依頼個数は603,150個で、前年度の604,600個に対し0.2%減少した。
- ・不合格はなかった。

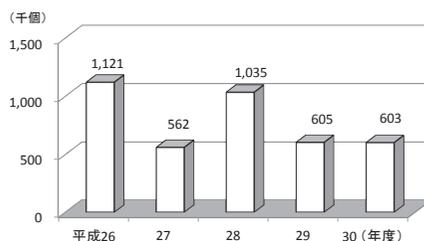


図-5 消火器加圧用ガス容器

(8) 蓄圧式消火器用指示圧力計

- ・依頼個数は4,779,182個で、前年度の4,553,005個に対し5.0%増加した。
- ・不合格はなかった。

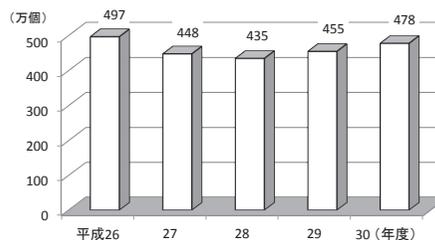


図-6 蓄圧式消火器用指示圧力計

(9) 消火器及び消火器加圧用ガス容器の容器弁

- ・依頼個数は47,389個で、前年度34,080個に対し39.1%増加した。
- ・不合格は1件600個でした。

不良内容

ア 気密試験において、漏れが生じるもの
(1件)

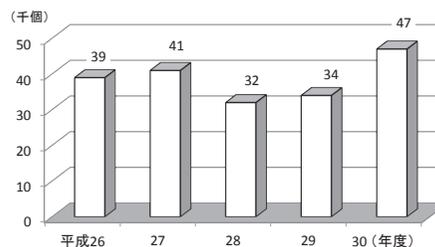


図-7 消火器及び消火器加圧用ガス容器の容器弁

(10) 消火設備用消火薬剤

- ・ 依頼個数は1,161,653個で、前年度の983,995個に対し18.1%増加した。
- ・ 不合格はなかった。

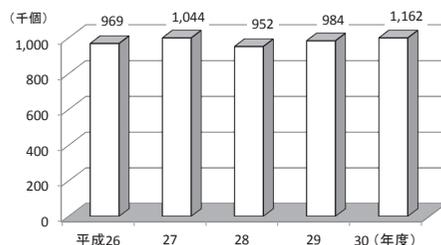


図-8 消火設備用消火薬剤

(11) 住宅用スプリンクラー設備及び同構成部品

- ・ 依頼個数は前年度と同様0個でした。

(12) 特殊消防ポンプ自動車等に係る特殊消火装置

- ・ 依頼台数は379台で、前年度371台に対し2.2%増加した。
- ・ 不合格は2件2台でした。

不良内容

ア 水槽の板材接合部の溶接が承認図面と異なるもの(1件)

イ アウトリガー装置が収納しないもの(1件)

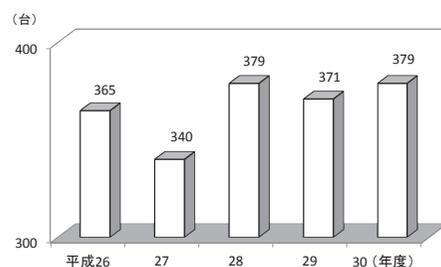


図-9 特殊消防ポンプ自動車等に係る特殊消火装置

(13) 可搬消防ポンプ積載車

- ・ 依頼台数は30台で、前年度の22台に対し36.4%増加した。
- ・ 不合格は1件1台でした。

不良内容

ア 耐圧試験で漏水するもの(1件)

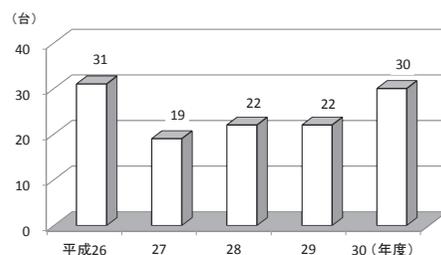


図-10 可搬消防ポンプ積載車

(14) ホースレイヤー

- ・依頼台数は61台で、前年度の78台に対し21.8%減少した。
- ・不合格はなかった。

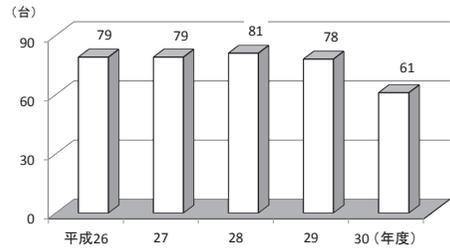


図-11 ホースレイヤー

(15) 消防用積載はしご

- ・依頼個数は2,897個で、前年度2,367個に対し22.4%増加した。
- ・不合格はなかった。

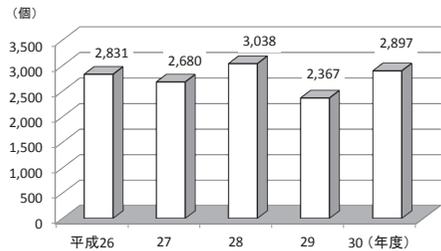


図-12 消防用積載はしご

(16) 消防用接続器具

- ・依頼個数は42,261個で、前年度の38,158個に対し10.8%増加した。
- ・不合格は2件186個でした。

不良内容

ア 寸法検査において、規定値を外れるもの
(2件)

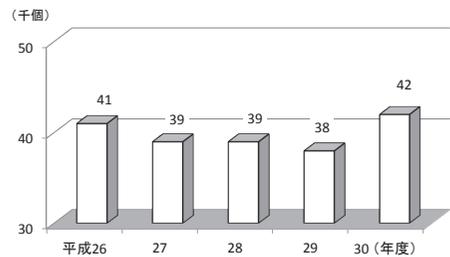


図-13 消防用接続器具

(17) 外部試験器の校正

- ・依頼個数は259個で、前年度の335個に対し22.7%減少した。
- ・不合格はなかった。

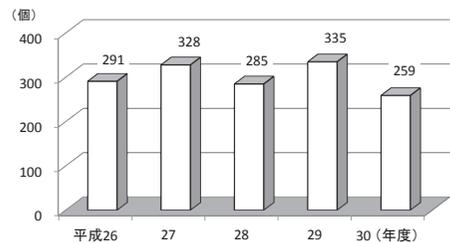


図-14 外部試験器の校正

(18) オーバーホール等整備を行った特殊消防自動車に係る特殊消火装置

- ・依頼個数は60台で、前年度の68台に対し11.8%減少した。
- ・不合格はなかった。

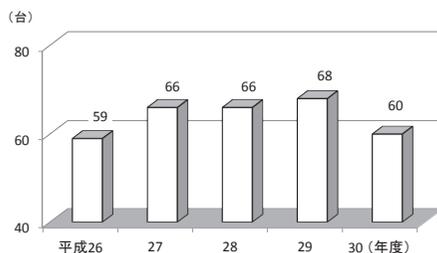


図-15 オーバーホール等整備を行った特殊消防自動車に係る特殊消火装置

3. 自主表示対象機械器具の品質評価業務関係

3-1. 型式評価・型式変更評価

(1) 動力消防ポンプ

(1-1) 消防ポンプ自動車

- ・依頼件数は5件で、前年度は9件でした。
不合格は0件でした。

(1-2) 可搬消防ポンプ

- ・依頼件数は前年度と同様2件でした。
不合格は0件でした。

(2) 消防用吸管

- ・依頼件数は前年度と同様0件でした。
不合格は0件でした。

(3) 消防用ホース

- ・依頼件数は58件で、前年度は32件でした。
不合格は5件でした。

不良内容

ア 構造 (3件)

イ 内張り (1件)

ウ 耐圧 (1件)

(4) 消防用結合金具

- ・依頼件数は4件で、前年度は11件でした。
- ・不合格は1件でした。

不良内容

ア 耐圧 (1件)

(5) 漏電火災警報器

- ・依頼件数は4件で、前年度は2件でした。
- ・不合格は0件でした。

(6) エアゾール式簡易消火具

- ・依頼件数は前年度と同様0件でした。

3-2. 型式適合評価

(1) 動力消防ポンプ

(1-1) 消防ポンプ自動車

- ・依頼台数は1,100台で、前年度の1,096台に対し0.4%増加した。
- ・不合格は3件3台でした。

不良内容

ア 耐圧試験において、配管が離脱するもの
(1件)

イ 連続放水試験後に揚水できないもの (1
件)

ウ 操作試験において、ポンプ・ドレーン・
コックが開かないもの (1件)

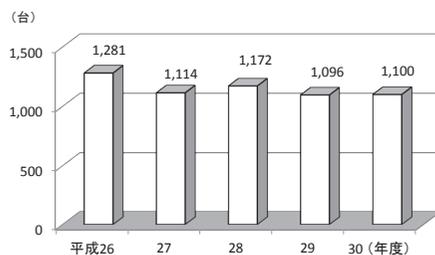


図-16 消防ポンプ自動車

(1-2) 可搬消防ポンプ

- ・ 依頼台数は4,163台で、前年度の3,700台に対し12.5%増加した。
- ・ 不合格はなかった。

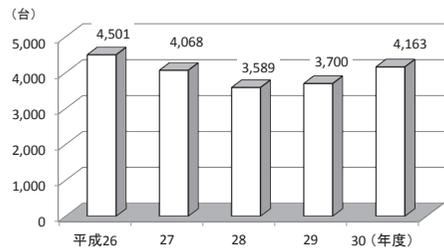


図-17 可搬消防ポンプ

(2) 消防用吸管

- ・ 依頼本数は8,486本で、前年度の8,380本に対し1.3%増加した。
- ・ 不合格はなかった。

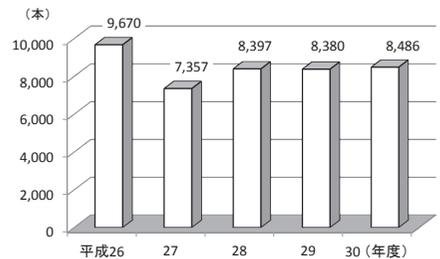


図-18 消防用吸管

(3) 消防用ホース

- ・ 依頼本数は683,615本で、前年度の638,072本に対し7.1%増加した。
- ・ 不合格はなかった。

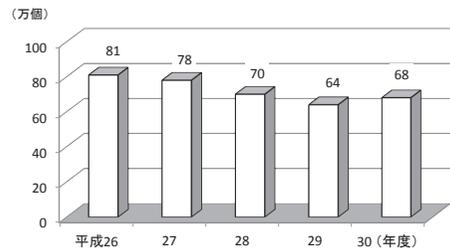


図-19 消防用ホース

(4) 消防用結合金具

- ・ 依頼個数は1,346,040個で、前年度の1,280,690個に対し5.1%増加した。
- ・ 不合格はなかった。

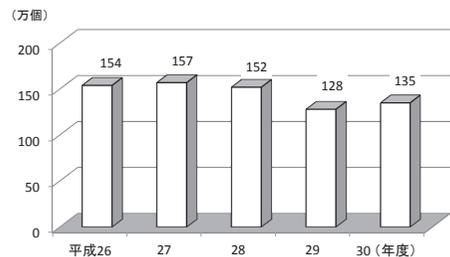


図-20 消防用結合金具

(5) 漏電火災警報器

- ・変流器の依頼個数は41,549個で、前年度の39,504個に対し5.2%増加した。
- ・受信機の依頼個数は33,925個で、前年度の34,372個に対し1.3%減少した。
- ・不合格はなかった。

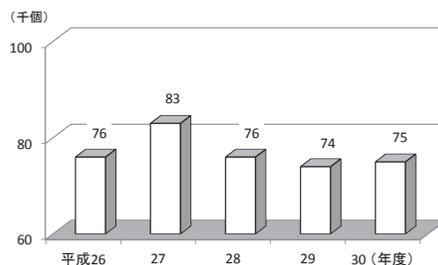


図-21 漏電火災警報器

(6) エアゾール式簡易消火具

- ・依頼個数は376,641個で、前年度の470,148個に対し19.9%減少した。
- ・不合格はなかった。

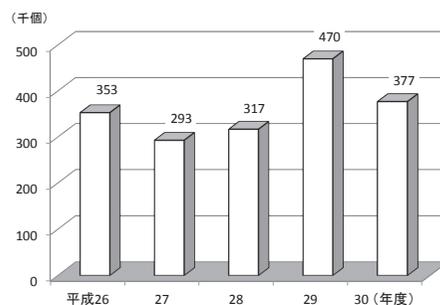


図-22 エアゾール式簡易消火具

4. 認定評価業務関係

4-1. 型式評価・型式変更評価・確認評価

(1) 自動火災報知設備の地区音響装置

- ・依頼件数は0件で、前年度は1件でした。
- ・不合格は0件でした。

(2) 非常警報設備の非常ベル及び自動式サイレン

- ・依頼件数は11件で、前年度は1件でした。
- ・不合格は0件でした。

(3) 非常警報設備の放送設備

- ・依頼件数は14件で、前年度は18件でした。
- ・不合格は0件でした。

(4) パッケージ型自動消火設備及び同構成部品

- ・依頼件数は前年度と同様0件でした。

(5) 総合操作盤

- ・依頼件数は前年度と同様0件でした。

(6) 易操作性1号消火栓

- ・依頼件数は0件で、前年度は2件でした。
- ・不合格は0件でした。

(7) 2号消火栓・補助散水栓

- ・依頼件数は1件で、前年度は0件でした。
- ・不合格は0件でした。

(8) 広範囲型2号消火栓

- ・依頼件数は前年度と同様2件でした。
- ・不合格は0件でした。

(9) ノズル

- ・依頼件数は5件で、前年度は1件でした。
- ・不合格は0件でした。

(10) 消防用ホースと結合金具の装着部

- ・依頼件数は前年度と同様0件でした。

(11) 放水型ヘッド等スプリンクラー設備

- ・依頼件数は1件で、前年度は3件でした。
- ・不合格は0件でした。

(12) 特定駐車場用泡消火設備

- ・依頼件数は25件で、前年度は16件でした。
- ・不合格は0件でした。

4-2. 型式適合評価・確認評価

(1) 自動火災報知設備の地区音響装置

- ・ 依頼個数は417,617個で、前年度の378,795個に対し10.2%増加した。
- ・ 不合格はなかった。

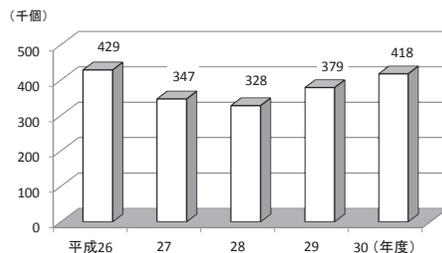


図-23 自動火災報知器設備の地区音響装置

(2) 非常警報設備の非常ベル及び自動式サイレン

- ・ 依頼個数は76,170個で、前年度の75,605個に対し0.7%増加した。
- ・ 不合格はなかった。

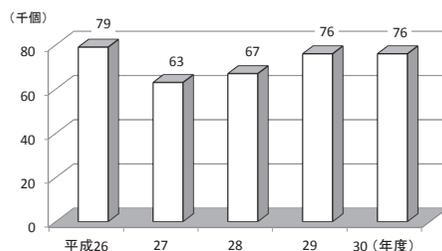


図-24 非常警報設備の非常ベル及び自動式サイレン

(3) 非常警報設備の放送設備

- ・ 依頼個数は1,166,020個で、前年度の1,193,004個に対し2.3%減少した。
- ・ 不合格はなかった。

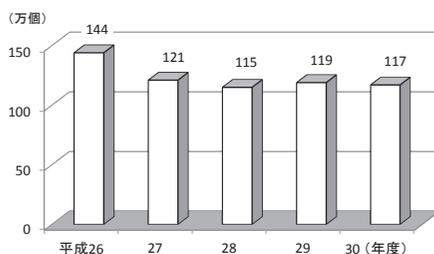


図-25 非常警報設備の放送設備

(4) パッケージ型自動消火設備及び同構成部品

- ・ 依頼個数は0個で、前年度の300個に対し皆減した。内訳では、消火設備が0個で前年度の240個に対し皆減、また、同構成部品は0個で、前年度の60個に対し皆減した。

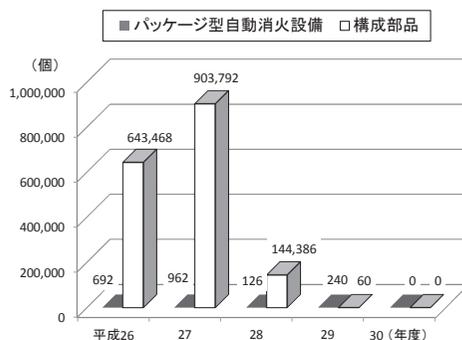


図-26 パッケージ型自動消火設備及び同構成部品

(5) 総合操作盤

- ・ 依頼件数は前年度と同様0件でした。

(6) 易操作性1号消火栓

- ・ 依頼個数は35,923個で、前年度の33,153個に対し8.4%増加した。
- ・ 不合格は1件50個でした。

不良内容

ア 寸法検査において、規定値を外れるもの
(1件)

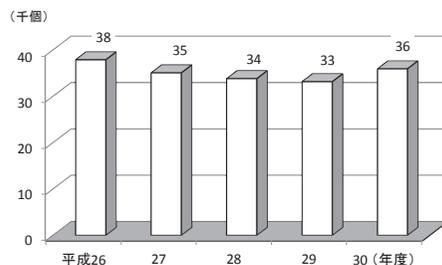


図-27 易操作性1号消火栓

(7) 2号消火栓・補助散水栓

- ・ 依頼個数は24,553個で、前年度の27,897個に対し12.0%減少した。
- ・ 不合格はなかった。

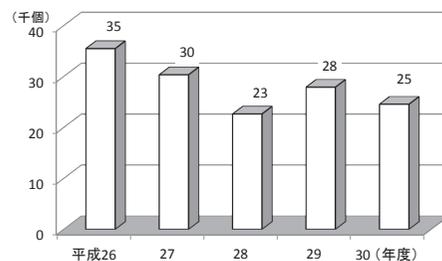


図-28 2号消火栓・補助散水栓

(8) 広範囲型 2号消火栓

- ・ 依頼個数は7,382個で、前年度の6,345個に対し16.3%増加した。
- ・ 不合格はなかった。

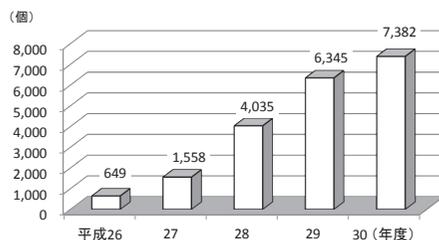


図-29 広範囲型 2号消火栓

(9) ノズル

- ・ 依頼個数は115,858個で、前年度の117,336個に対し1.3%減少した。
- ・ 不合格はなかった。

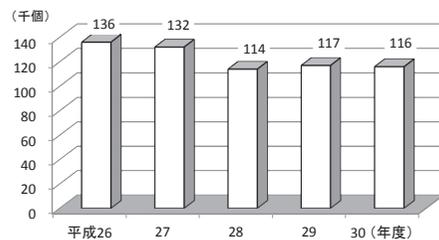


図-30 ノズル

(10) 消防用ホースと結合金具の装着部

- ・ 依頼個数は626,765個で、前年度の583,393個に対し7.4%増加した。
- ・ 不合格はなかった。

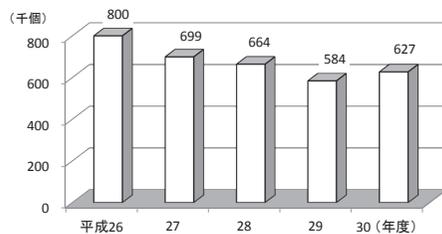


図-31 消防用ホースと結合金具の装着部

(11) 放水型ヘッド等スプリンクラー設備

- ・ 1号評価を受けた放水型ヘッド等スプリンクラー設備の主要構成装置の型式適合評価依頼は、放水部は3,397個で前年度の7,077個に対し52.0%減少、感知部は188個で前年度の79個に対し138.0%増加、制御部は1,590個で前年度の949個に対し67.5%増加した。また、手動操作部は215個で前年度の183個に対し17.5%増加、受信部は5個で前年度の0個に対し皆増した。

全体の依頼個数は、5,395個で前年度の8,288個に対し、34.9%減少した。

- ・ 不合格はなかった。

□ 26年度 ▨ 27年度 ▩ 28年度 ■ 29年度 ■ 30年度

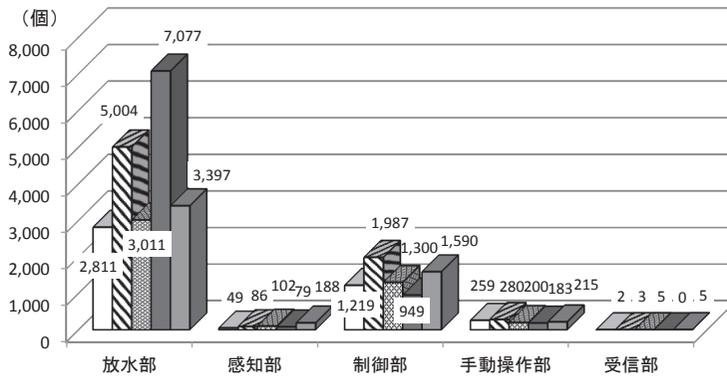


図-32 放水ヘッド等スプリンクラー設備

(12) 特定駐車場用泡消火設備

- ・ 依頼個数は108,483個で、前年度の99,370個に対し9.2%増加した。
- ・ 不合格は1件3,600個でした。

不良内容

ア 作動試験において、作動が不完全なもの（1件）

5. 特定機器評価業務

5-1. 総合評価

- ・ 依頼件数は1件で、前年度は1件でした。

5-2. 型式評価・型式変更評価

- ・ 依頼件数は2件で、前年度は4件でした。
- ・ 不合格は0件でした。

5-3. 型式適合評価

- ・ 依頼個数は391,354個で前年度は330,686個でした。
- ・ 不合格は0件でした。

6. 特殊消防用設備等の性能に関する評価

- ・ 依頼件数は前年度と同様 0 件でした。

7. 特例の評価依頼

- ・ 依頼件数は 1 件で、前年度は 6 件でした。



第14回検定等技術協議会（全体会議） の会議報告（概要）

業務企画室

令和元年6月14日にアルカディア市ヶ谷（富士）にて第14回検定等技術協議会（全体会議）を開催いたしました。その概要についてご報告いたします。

1 開催日時

令和元年6月14日（金） 14:00～15:00

2 開催場所

アルカディア市ヶ谷 3階 富士

3 配付資料

- (1) 手数料の改定について
- (2) 検定手数料及び消費税率の改定に係る運用について
- (3) その他

4 議事（概要）

当日は、申請者など98名（70社）がご出席されました。

議事の「手数料の改定について」は、業務企画室から、また、「検定手数料及び受託評価手数料の改定に係る運用について」は総務部監理課からそれぞれ説明いたしました。

その後、議題及びそれ以外も含めて質疑応答を行い、検定等技術協議会（全体会議）を閉会いたしました。



第14回検定等技術協議会（全体会議）の様子

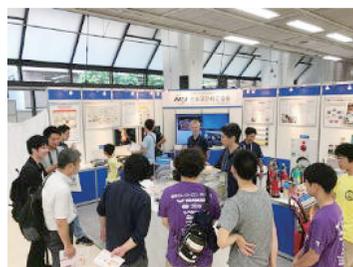


「第19回レスキューロボットコンテスト」への展示ブースの出展について

企画研究部 情報管理課

令和元年8月10日（土）・11日（日）の2日間、神戸サンボーホールにおいて「第19回レスキューロボットコンテスト」が開催されます。（入場無料）

当協会では、本コンテスト会場内の「あそぼう！まなぼう！ロボットランド」会場に展示ブースを出展し、『信頼できる消防機器のために』をキャッチフレーズに、来場者の皆様に当協会の業務について一層ご理解いただけるよう、国家検定業務等の関連映像、パネル、防災機器等の展示を行います。



昨年度の展示ブースの様子

なお、当協会展示ブースは、両日ともに10時から17時まで出展します。競技会本選は8月10日（土）13時30分から8月11日（日）17時20分まで開催される予定です。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

日程	競技会	展示ブース
8/10(土)	13:00 競技会開場	10:00～17:00 当協会展示ブース オープン
	13:30～17:30 開会式・ファーストミッション 第1～7競技（※1）	
8/11(日)	9:30 競技会開場	10:00～17:00 当協会展示ブース オープン
	10:00～12:20 セカンドミッション 第1～4競技（※2）	
	13:00～15:45 ファイナルミッション第1～4競技	
	15:45～16:40 講演「災害対応・社会インフラ維持 管理のためのセンシング・ビジョン 技術」藤井浩光（千葉工業大学先進 工学部未来ロボティクス学科准教授）	
	16:40～17:20 表彰式・閉会式	

※1（ファーストミッションでは14チームからファイナルミッションへ進出する6チームを選びます。）

※2（セカンドミッションではさらに2チームを選びます。）

【会場アクセス】

会場：神戸サンボホール

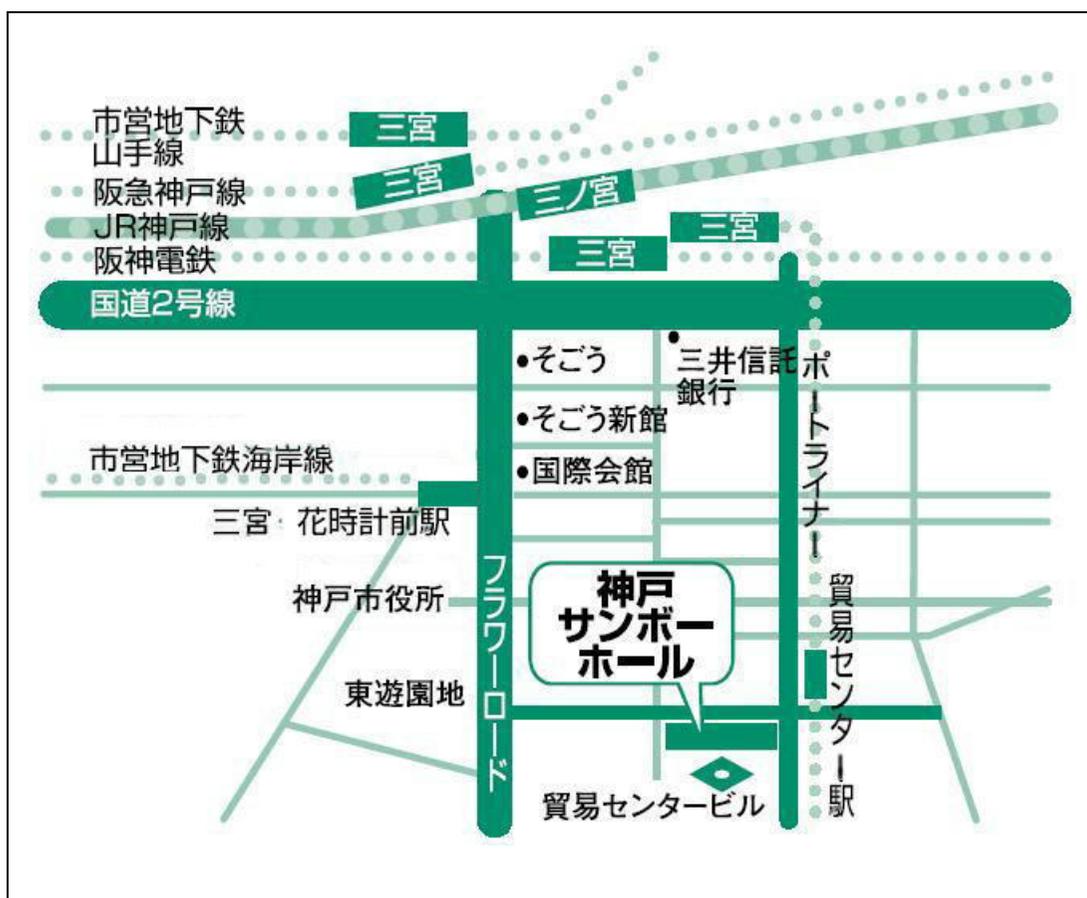
神戸市中央区浜辺通 5-1-32

◇ポータルライナー「貿易センター駅」下車すぐ

◇JR「三宮駅」から徒歩10分

◇阪急・阪神「三宮駅」から徒歩10分

◇神戸市営地下鉄「三宮・花時計前駅」から徒歩5分





第10回アジア防火検査協議会(A F I C) 総会等について

企画研究部 企画研究課

はじめに

アジア防火検査協議会 (Asia Fire-protection Council 以下「A F I C」という。)は、“アジア地域での消防検査機関の間における相互理解と情報交換”を主旨に設立されたもので、当協会はアジア地域の消防関係の試験検査機関との連携を図り、情報収集に努めるため第1回総会から参加しています。

現在A F I Cには、フィリピン共和国 (以下「フィリピン」という。)、タイ王国 (以下「タイ」という。)、インド共和国 (以下「インド」という。)、中華民国 (以下「台湾」という。)、大韓民国 (以下「韓国」という。)、ベトナム社会主義共和国 (以下「ベトナム」という。)、シンガポール共和国 (以下「シンガポール」という。)、インドネシア共和国 (以下「インドネシア」という。)、マレーシア及び日本国 (以下「日本」という。)の10の国や地域の機関が会員として参加しています。

日本からは発足当初は三つの試験機関が参加していましたが、現在は当協会のみとなっています。

A F I C会議は、総会と事務レベル会議で構成されており、事務レベル会議は総会での議題について事前に詳細審議し承認することが目的で、総会では事務レベル会議の結果及びその他の議題について審議し、その結果が共同声明として発出されます。

総会は、第1回が平成17年5月に韓国の大邱広域市において開催され、その他の都市ではインドのデリー市、台湾の台北市で開催されており、平成21年の第5回は日本の東京都において開催しました。

事務レベル会議は、平成22年8月に第1回が韓国の大邱広域市において単独開催され、その他ベトナムのホーチミン市でも開催されました。

A F I C総会は、第5回目以降は2年に1度開催されることと規定されており、第7回総会からは同時に事務レベル会議も開催されています。

第10回A F I C総会は平成31年4月24日(水)に、第5回事務レベル会議は同月23日(火)に、韓国の大邱広域市において第16回韓国国際消防・安全万博と同時に開催され

ましたので、その内容等について報告いたします。

1 スケジュール

【平成31年4月22日（月）】ソウル特別市

- ・韓国消防研究所主催ウエルカムディナー&韓国伝統文化体験

【平成31年4月23日（火）】大邱広域市

- ・第5回AFIC事務レベル会議

開催時間：15:00～18:00

場所：ホテルインターブルゴ EXCO Room324

- ・AFICウエルカムバンケット

【平成31年4月24日（水）】大邱広域市

- ・第16回韓国国際消防・安全万博開幕式出席及び視察

- ・AFICオフィシャル昼食会

- ・第10回AFIC総会

開催時間：14:00～16:30

場所：ホテル インター
ブルゴ EXCO ブルーベ
ルホール

- ・プレゼント交換会
- ・韓国消防庁主催オフィ
シャルバンケット

【平成31年4月25日（木）】

大邱広域市

- ・大邱広域市内視察
- ・ビジネスネットワーク
グパーティー

- ・大邱広域市の八公山桐華
寺の見学及び文化体験

【平成31年4月26日（金）】

- ・出国

2019 The 10 th AFIC Meeting Schedule	
22th April(Mon.)	Arrival in Seoul, Korea - ibis Ambassador Seoul Myeongdong 18:00 - 20:00 Dinner
23th April(Thu.)	
08:30 - 1:30	Move to Daegu City - Hotel Inter-Burgo EXCO
01:30 - 2:30	Lunch
15:00 - 18:00	The 5th Working-level Meeting I (Room 505, 5F EXCO) - Working-level Meeting attendees move to the meeting room
18:00 - 20:00	AFIC Welcome Banquet
24th April(Wed.)	
10:00 - 12:00	The 5th Working-level Meeting II (Room 505, EXCO) - Working-level Meeting attendees move to the meeting room
12:15 - 13:30	Official Lunch (Room 324, EXCO)
14:00 - 16:30	The 10th AFIC General Meeting (Bluebell hall, Hotel Inter-Burgo EXCO)
18:00 - 20:00	Official Banquet
25th April(Thur.)	
10:00 - 12:00	KFI International Conference (Room 320, EXCO)
12:00 - 13:00	Lunch
13:00 - 14:00	Business Networking Party
14:00 - 17:30	Cultural Experience Daegu City
12:30 - 14:30	Move to Palbong Mountain, Daegu City
14:30 - 17:30	Visiting Doing Hwa Temple
18:00 - 19:30	Dinner
26th April(Fri.) Departure from Daegu City, Korea	

スケジュール

2 参加試験機関及び日本出席者

今回の会議には、韓国の消防研究所（以下「KFI」という。）、インドの火災、爆発物、環境安全センター（以下「CFEES」という。）、台湾の中国防火安全センター（以下「CFS」という。）、シンガポールのTUV SUD PSB Pte Ltd（以下「TUV SUD PSB」という。）、ベトナム消防警察（以下「VFRPD」という。）及び日本消防検定協会（以下「JFEII」という。）の6機関が出席し、当協会からは蛭谷真明理事、廣庭忠雄企画研究部長、企画研究課の佐藤まゆが出席しました。

また、総会には上記6機関以外にオブザーバーとして、モンゴル国家緊急管理局（以下「モンゴル」という。）、マレーシア消防局、ラオス防火・戦闘警察局（以下「ラオス」という。）の3機関が出席し、総勢9機関でありました。

3 第5回AFIC事務レベル会議の概要

(1) 出席者

KFI 3名、CFEES 2名、CFS 2名、JFEII 2名（廣庭、佐藤）、TUV SUD PSB 1名、VFRPD 2名 計12名

(2) 議事内容は次のとおりです。

議題1（提案者：AFIC事務局）：新しいAFICのウェブページの紹介と利用計画の協議

- ・AFICウェブページを使って会員間の交流を活性化する。
- ・防火システム、認証システム、防火に関するコード及び規格に関する情報を共有する。

〈決議事項〉：全会一致で承認された。

- ・AFICのウェブページの有効な利用について合意を得た。
- ・各組織で有用な情報、イベントの開催予定等があればAFICのウェブページに掲載することとする。

議題2（提案者：AFIC事務局）：AFICの準会員制度と管理計画の確立

- ・年会費なしでAFIC会員として働きたい組織のための準会員制度を確立する。
- ・規程にも反映する。

〈決議事項〉：全会一致で承認された。

- ・AFIC会員の年会費の負担増は行わない。
- ・準会員の参加費用は自己負担とする。

-
- ・管理計画については、準会員はA F I C会議に最大2回（4年間）参加できることとする。
 - ・準会員は、4年間の間に正規会員として登録するかどうかを決定する必要がある。
 - ・準会員として登録したい場合は、総会に参加し意思表示又は事務局へ申し込みをすることとする。
 - ・準会員への登録の可否は、総会で決定することとする。
 - ・準会員の定義付けについては、今後議論していくこととする。

議題3（提案者：TUV SUD PSB）：A F I C加盟国における防火に関するコードと基準の作成

〈決議事項〉：3分の2以上の賛成で承認された。

- ・標準共有プラットフォームは、A F I C ウェブページで開発することとする。
- ・各A F I Cメンバーは、自国の基準をA F I Cウェブページに掲載することとする。

議題4（提案者：CFEES）：CFEESからの八つの議題（テーマ別に三つに分けて議論する。）

① ワーキンググループの設立に関する議題の一括審議（議題：4-1、4-4、4-8）

- 4-1) アジア規格の制定が求められる防火設備、器具及び技術を特定するための合同委員会を設立する。
- 4-4) UL / FM / BS / EN / Vdsなどの国際規格に対する、信頼できるA F I Cの基準を制定する。
- 4-8) アジアの消防設備市場の種類別、エンドユーザー別、及びアジアの消防設備市場について調査する。
 - アジアの消防設備市場規模、シェア及び予測
 - セグメント分析
 - タイプ別（消防、火災検知及び防火）、エンドユーザー別（産業用、商業用及び住居用）
 - 価格分析と主要な代理店及びディーラーのリスト
 - 政策及び規制の展望
 - 市場動向の変化と新たな機会
 - 競争力のある景観と戦略的提言

〈決議事項〉：全会一致で承認された。

- ・各組織で使用している技術基準を比較してから、UL / FM / BS / EN / Vds などの国際規格と比較し、事務局が比較表を作成し情報を共有する。その後、ワーキンググループを設立することとする。
 - ・中長期的なプランとして議論していくこととする。
- ② 各国による管理状況の紹介の一括審議（議題：4-3、4-7）

4-3) 国内で開発されたシステム / 技術を含むように見直される建築基準を制定する。

- ・建築基準を載せられるようにAFICのウェブページをアップグレードする。

4-7) 相互交換プログラムの下で加盟国によって推薦された参加者への上級レベルの防火訓練を実施する。

→国と国との相互マッチングを行う。

- ・各国で防火訓練に対する技術基準の研修プログラムがあれば、AFICのウェブページに掲載する。

〈決議事項〉：4-3は否決された。

〈決議事項〉：4-7は3分の2以上の賛成で承認された。

- ・各国で防火訓練に対する技術基準の研修プログラムがあれば、AFICのウェブページに掲載することとする。
- ・可能な組織のみ行うこととする。
- ・次回以降も継続して議論していくこととする。

③ 次回国際セミナーのテーマの決定の一括審議（議題：4-5、4-6）

4-5) AFIC加盟国間での最新の知識と事例研究を共有（各国の最新情報の提供）する。

4-6) アジア規格に準拠した防火製品の認証機関の特定及びAFIC加盟国の認証製品を優先（最新基準の動向の提供）する。

〈決議事項〉：3分の2以上の賛成で承認された。

- ・次回参加する全ての組織が、次回総会でどちらかのテーマについて発表することとする。

④ その他の審議（議題：4-2）

4-2) 完全防火近接及びエントリースーツ用の試験 / 評価施設を設立する。

- ・防熱服の試験方法や検証システムは今まではヨーロッパの基準に従ってきた、今後AFICの基準を制定する。



事務レベル会議の様子



事務レベル会議の様子

- 2019 Asia Fire-protection Inspection Council (AFIC) - The 5 th AFIC Working - level Meeting Agenda	
1)	(AFIC Secretariat) Introduction on a new AFIC webpage and discussion with its utilization planning
2)	(AFIC Secretariat) To establish the associate membership system for AFIC and management plan
3)	(TUV SUD PSB Pte Ltd) Compilation of codes and standards for fire-protection in AFIC member countries
4)	(CFEES) 8 agendas from India <ul style="list-style-type: none"> 1) Constitution of Joint Committee for identification of fire safety equipment, appliances & technologies whose Asian standards are required to be formulated 2) To set up test/evaluation facilities for complete fire proximity & entry suits 3) Building codes to be reviewed to include systems/technologies developed within the country 4) Up gradation of AFIC member countries standards vis-a-vis international standards such as UL/FM/BS/EN/Vds etc 5) Sharing of latest knowledge & case studies amongst member countries of AFIC 6) Identification of Certifying Agencies for Fire Safety products as per Asian Standards and preference for AFIC member country Certified Products 7) Imparting advanced level fire safety training to the participants nominated by member countries under mutual exchange programme 8) Asian Fire and Safety Equipment Market by Type, by End User and to discuss the fire and safety equipment market in Asia <ul style="list-style-type: none"> - Asian Fire & Safety Equipment Market Size, Share & Forecast - Segmental Analysis <ul style="list-style-type: none"> - By Type (Fire Fighting, Fire Detection and Fire Protection), By End User (Industrial, Commercial and Residential) - Pricing Analysis and List of Major Distributors & Dealers - Policy & Regulatory Landscape - Changing Market Trends & Emerging Opportunities - Competitive Landscape & Strategic Recommendations

事務レベル会議の議題

〈決議事項〉：3分の2以上の賛成で承認された。

- ・可能な組織のみ防熱服の試験方法や検証システムをAFICのウェブページに掲載することとする。
- ・保有している試験設備及び試験基準をAFICのウェブページに掲載することとする。

4 第10回AFIC総会の概要

(1) 出席者

会員：KFI 3名、CFEES 2名、CFS 2名、JFEII 3名、TUV SUD PSB 1名、VFRPD 5名 計16名

オブザーバー：モンゴル3名、マレーシア3名、ラオス3名 計9名

総計25名

(2) 議事内容は次のとおりです。

議題1：第5回AFIC事務レベル会議決議の承認

〈決議事項〉：全会一致で承認された。

議題 2：準会員制度の導入と準会員加入の承認

〈決議事項〉：全会一致で承認された。

- ・モンゴル及びマレーシアの消防機関が参加の意志を表明したため、準会員として承認することとなった。
- ・ラオスの消防機関は本国に帰り大統領に報告し、方針を決定し次第（3か月以内）事務局に回答することとなった。

議題 3：第11回AFIC総会の開催組織の選挙

- ・CFEES と CFS が立候補を表明した。
- ・2か国から開催の希望があったので、定款では総会は2年に1度行うこととされているが運用で1年ごとの開催とし、2021年はCFEESで、CFSはその翌年の2022年の開催としていいか採決することとなった。

〈決議事項〉：3分の2以上の賛成で承認され、2021年はインドで開催、2022年は台湾で開催することとなった。

- 2019 Asia Fire-protection Inspection Council (AFIC) -
The 10th AFIC General Meeting Agenda

1) Approval of contents of discussion on working level meeting

- (AFIC Secretariat) Introduction on a new AFIC webpage and discussion with its utilization planning
- (AFIC Secretariat) To establish the associate membership system for AFIC and management plan
- (TUV SUD PSB Pte Ltd) Compilation of codes and standards for fire protection in AFIC member countries
- (CFEES) 8 agendas from India
 - 1) Constitution of Joint Committee for identification of fire safety equipment, appliances & technologies whose Asian standards are required to be formulated
 - 2) To set up test/evaluation facilities for complete fire proximity & entry suits
 - 3) Building codes to be reviewed to include systems/technologies developed within the country
 - 4) Up gradation of AFIC member countries standards vis-a-vis international standards such as UL/FM/BS/EN/Vds etc
 - 5) Sharing of latest knowledge & case studies amongst member countries of AFIC
 - 6) Identification of Certifying Agencies for Fire Safety products as per Asian Standards and preference for AFIC member country Certified Products
 - 7) Imparting advanced level fire safety training to the participants nominated by member countries under mutual exchange programme
 - 8) Asian Fire and Safety Equipment Market by Type, by End User and to discuss the fire and safety equipment market in Asia

2) Adoption of associate membership

- To establish the associate membership system for AFIC
- Agreement or opposition for associate membership for Mongolia, Laos, Malaysia
- ※ More than half of the participating member organizations is required

3) The 11th AFIC General Meeting organizer election

- Selection and approval of the 11th General Meeting organizer 2021
- ※ Select an applicant as the next organizer. If not, select the organizer according to the result of a discussion with acceptance

期別	Organizer	Year	期別	Organizer	Year
The 1 st	KFI(Korea)	2005	The 6 th	KFI(Korea)	2011
The 2 nd	KFI(Korea)	2006	The 7 th	KFI(Korea)	2013
The 3 rd	CFEES(India)	2007	The 8 th	KFI(Korea)	2015
The 4 th	JFER(Japan)	2008	The 9 th	VFNPD(Vietnam)	2017
The 5 th	CFS(Taiwan)	2009	The 10 th	KFI(Korea)	2019

- 1 -

総会の議題



総会の様子



総会の様子

5 第16回韓国国際消防・安全万博

この万博は、韓国有数の国際的な消防及びセキュリティビジネスの専門の展示会で、UFI（国際展示協会）公認のイベントとして毎年開催されているものです。

消防設備・機器の展示が主ですが、ビジネスネットワーキングパーティー等も開催され商談等も行われていました。



会場の入り口



出展ブースの説明



会場の大邱広域市EXCO

第16回韓国国際消防・安全万博の様子

6 文化体験

韓国の大邱広域市の八公山^{とうかじ}桐華寺において寺院見学とともに、精進料理体験を行いました。

桐華寺は、493年に極達和尚が創建し、832年に心地王師が再建した時に桐の花が咲いたため桐華寺と呼ぶようになりました。桐華寺はEXCOから車で1時間30分ほどの場所にあり、敷地は広大で国家指定文化財や有形文化財等を数多く所蔵しているとのことでした。バスを降り山道を歩いて精進料理体験館に移動し、苺と唐辛子のジャム、山芋の焼き物及び餅粉をこねて食用の花を載せて焼いた精進料理を作り、別室にてお茶と共にいただきました。

寺院では精進料理体験の他に宿泊して禅や瞑想、108懺悔等を行う体験も行っており、日本からも多くの方が訪れているとのことでした。



大雄殿
(朝鮮時代の英祖の時に建てられた)



韓国の精進料理



擁護門



AFIC総会出席者(桐華寺にて)

さいごに

今回のAFIC総会では、次回の総会の開催組織の決定に相当の時間を費やして議論が行われました。結果として2021年から2年連続で総会が行われることが決定し、準会員制度の導入と準会員加入の承認も行われました。また、事務レベル会議では議題が11も挙がり、活発な議論が行われるなどAFICの活動は活性化しています。

当協会としても、今後もAFIC活動に積極的に参加していくこととしています。



有効期限を経過した受託評価品目

【スピーカー】

型式番号	承認年月日	住 所	依 頼 者	有効期限の終期日
認評放第26～14号	H26.5.26	兵庫県神戸市中央区港島中町七丁目2番1号	TOA株式会社	R1.5.25

上記の機械器具等が、型式に係る有効期限を経過しましたのでお知らせします。

上記の機械器具等は、有効期限の終期日以降、当該型式に基づく製品について新たに当協会の型式適合評価を受け、合格表示が行われることはありません。

既に設置され又は型式適合評価を受け合格表示が行われた上記の機械器具等については、型式適合評価時において基準への適合性が確認されており適正な設置及び維持管理がされていれば、当該有効期限の経過による使用への影響はありません。

■■業界の動き■■

- 会議等開催情報 -

◆（一社）日本火災報知機工業会◆

○業務委員会（令和元年6月17日）

- ・平成30年度事業報告書及び収支計算書について、令和元年度事業計画書及び収支予算書について
- ・令和元年5月度理事会概要報告について
- ・令和元年度定時総会及び臨時理事会議事録概要報告について
- ・住宅用火災警報器関連の報告他
検定申請個数等の定例報告
- ・消防機器等製品情報センター運営会議議事概要について
- ・事務局長会議議事概要について
- ・データ審査型式適合検定責任者講習の開催について
- ・検定等技術協議会（全体会議）の開催報告について
- ・機器協会 消防機器等関係者表彰式概要報告について
- ・中央合同庁舎第2号館受付管理システムへの事前登録のない者に対する入館受付時の確認強化について
- ・委員長連絡会報告

○メンテナンス委員会

（令和元年6月13日）

- ・維持運用管理手法小委員会報告

- ・点検実務検討小委員会について
- ・委員長連絡会報告

○技術委員会（令和元年6月13日）

- ・火報システム技術検討小委員会報告
- ・住警器設置・交換ガイドブック作成WG報告
- ・委員長連絡会報告

○設備委員会（令和元年6月27日）

- ・設備性能基準化小委員会報告
- ・工事基準書改訂小委員会報告
- ・委員長連絡会報告

○システム企画委員会

（令和元年6月28日）

- ・光警報システム関連報告
- ・火報企画検討小委員会報告
- ・火報関連システムとの連携調査小委員会報告
- ・委員長連絡会報告

○住宅防火推進委員会

（令和元年6月26日）

- ・交換推進WGについて
- ・第109回全国消防長会予防委員会報告について
- ・住宅用火災警報器検定申請数について
- ・お客様電話相談室受付結果について
- ・委員長連絡会報告

協会通信

◆（一社）日本消火器工業会◆

○第3回企業委員会

（令和元年6月20日）

- ・消火器の申請・回収状況
- ・消火器リサイクル推進センターからの報告
- ・機器協会会長表彰・祝賀会・定時総会について
- ・検定手数料および消費税率の改定に係る運用について
- ・「消防機器業」について
- ・平成30年版廃消火器リサイクルシステム年次報告書の発行について
- ・消火器リサイクルシステム基本規定の改定について
- ・社会実験用シール消火器の処理について

○第1回 PR委員会

（令和元年6月28日）

- ・消火器のしおりについて
- ・住宅用消火器等の点検に係る広報について
- ・高性能型消火器のPRについて
- ・「国際福祉機器展」立会い協力依頼について

◆（一社）日本消火装置工業会◆

○第398回技術委員会

（令和元年6月5日）

- ・平成30年度技術委員会活動報告書（案）の審議
- ・ホームページ改訂についての意見募集（業務検討会関連）
- ・消火設備に関する課題および法令改正等についての要望書について
- ・その他

○第180回第一部技術分科会

（令和元年6月21日）

- ・設計・工事基準書改訂編集WG1からの検討依頼
- ・住宅用スプリンクラー設備等について
- ・平成30年度第一部会活動報告

○第175回第二部技術分科会

（令和元年6月20日）

- ・PFOSに関連する各種資料の修正
- ・第17回合同委員会について
- ・その他

○第157回第三部技術分科会

（令和元年6月18日）

- ・不活性ガス消火設備の消火剤放射時間の見直しについて
- ・新ガス消火設備の、防護区画の面積と体積制限の撤廃要望について
- ・平成30年度 第三部会技術分科会活動報告について
- ・韓国消防産業技術院（認証機関）から

協会通信

検定協会だより 令和元年7月

協会通信

の圧力損失計算の問い合わせ

- ・その他

◆（一社）日本消防ポンプ協会◆

○総務委員会（令和元年6月17日）

- ・全国消防機器協会事務局長会議等の報告について
- ・消防庁長官表彰について
- ・ISO/TC21/SC6/WG8について
- ・検定等技術協議会について
- ・その他

○小型技術委員会（令和元年6月10日）

- ・可搬消防ポンプの点検器具について
- ・表示ラベルの統一化について
- ・省令改正について
- ・整備資格者講習について
- ・定期交換部品について
- ・取説ガイドラインについて
- ・その他

○大型技術委員会（令和元年6月14日）

- ・ISO/TC21/SC6 国際会議について
- ・全国消防長会 技術委員会報告
- ・給油口の配置について
- ・可搬消防ポンプピクトグラムについて
- ・BSIS (Blind Spot Information System) について
- ・その他

○吸管技術委員会（令和元年6月4日）

- ・全国消防長会との打合せ
- ・消防用吸管に係るアンケート調査について
- ・その他

○ISO/TC21/SC6/WG8 国内委員会
（令和元年6月14日）

- ・ロシア サンクトペテルスブルク国際会議について
- ・審議内容について
- ・その他

協会通信

◆◆人事異動◆◆

◆日本消防検定協会◆

○令和元年6月23日付

(氏名)	(新)	(旧)
山田 年孝	(退職)	業務企画室長 上席検定員

○令和元年6月24日付

(氏名)	(新)	(旧)
飯塚 治	総務部長 兼業務企画室長 上席検定員	総務部長 上席検定員

◆消防庁人事◆

○令和元年6月1日付

(氏名)	(新)	(旧)
川上 沙織	併任 総務課	総務省大臣官房秘書課

○令和元年6月2日付

(氏名)	(新)	(旧)
畑中 雄貴	出向 併任解除 併任解除	消防・救急課課長補佐 併任 消防・救急課広域化推進専門官 併任
阿部 辰雄	併任 消防・救急課課長補佐 併任 消防・救急課広域化推進専門官 併任 消防・救急課消防職員専門官	消防・救急課消防職員専門官 国民保護・防災部防災課課長補佐 併任 国民保護・防災部防災課地域防災室課長補佐

新たに取得された型式一覧

型式承認

種 別	型 式 番 号	申 請 者	型 式	承認年月日
中継器	中第2019～5号	能美防災株式会社	直流24V、外部配線抵抗50Ω	R1.5.13
	中第2019～6号	能美防災株式会社	直流24V、外部配線抵抗50Ω	R1.5.13
	中第2019～7号	能美防災株式会社	直流24V、外部配線抵抗50Ω	R1.5.13
	中第2019～8号	日本ドライケミカル株式会社	直流27V、外部配線抵抗50Ω	R1.6.6
	中第2019～9号	日本ドライケミカル株式会社	直流27V、外部配線抵抗50Ω	R1.6.6
	中第2019～10号	日本ドライケミカル株式会社	直流27V、外部配線抵抗20Ω	R1.6.6
	中第2019～11号	日本ドライケミカル株式会社	直流27V、外部配線抵抗20Ω	R1.6.6
	中第2019～12号	日本ドライケミカル株式会社	直流27V、外部配線抵抗20Ω	R1.6.6
	中第2019～13号	日本ドライケミカル株式会社	直流27V、外部配線抵抗20Ω	R1.6.6
	中第2019～14号	日本ドライケミカル株式会社	直流27V、外部配線抵抗20Ω	R1.6.6
R型受信機（蓄積式）	受第2019～11号	日本ドライケミカル株式会社	交流100V、外部配線抵抗20Ω、公称蓄積時間60秒	R1.6.6
光電式住宅用防災警報器	住警第2019～5号	能美防災株式会社	電池方式、2種（DC3V、400mA）、無線式、運動型、自動試験機能付	R1.5.28
	住警第2019～6号	能美防災株式会社	電池方式、2種（DC3V、400mA）、無線式、運動型、自動試験機能付	R1.5.28
定温式住宅用防災警報器	住警第2019～7号	能美防災株式会社	電池方式（DC3V、400mA）、無線式、運動型、自動試験機能付	R1.5.28
光電式住宅用防災警報器	住警第2019～8号	マックス株式会社	電池方式、2種（DC3V、350mA）、自動試験機能付	R1.6.17
	住警第2019～9号	マックス株式会社	電池方式、2種（DC3V、350mA）、自動試験機能付	R1.6.17
定温式住宅用防災警報器	住警第2019～10号	マックス株式会社	電池方式（DC3V、350mA）、自動試験機能付	R1.6.17
	住警第2019～11号	マックス株式会社	電池方式（DC3V、350mA）、自動試験機能付	R1.6.17

型式変更承認

種 別	型 式 番 号	申 請 者	型 式	承認年月日
GR型受信機（蓄積式及び自動試験機能付）	受第9～125～3号	能美防災株式会社	交流100V、外部配線抵抗30Ω、公称蓄積時間60秒	R1.6.3
定温式住宅用防災警報器	住警第27～3～1号	富士電機株式会社	電池方式（DC3V、300mA）、自動試験機能付	R1.6.6

品質評価 型式評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認年月日
消防用結合金具	C 11AG02A	株式会社 山田製作所	使用圧2.0、差込式差し口、呼称75	R1.6.13
	C 11BG02A	株式会社 山田製作所	使用圧2.0、差込式受け口、呼称75	R1.6.13
結合金具に接続する 消防用接続器具	品評接第 2019～9号	ヨネ株式会社	媒介金具（受け口・ねじ式・呼称65） （差し口・差込式・呼称65）	R1.6.7
	品評接第 2019～10号	ヨネ株式会社	媒介金具（受け口・ねじ式・呼称65） （受け口・差込式・呼称65）	R1.6.7
	品評接第 2019～11号	株式会社 北浦製作所	媒介金具（受け口・ねじ式・呼称25） （差し口・ねじ式・呼称25）	R1.6.11
	品評接第 2019～12号	株式会社 北浦製作所	媒介金具（受け口・ねじ式・呼称30） （差し口・ねじ式・呼称30）	R1.6.11
特殊消防ポンプ自動車 又は特殊消防自動車 に係る特殊消火装置	MT-15-14	株式会社モリタ	水槽付消防ポンプ自動車	R1.6.12
	MQA22・MC E-7-4	株式会社モリタ	大型化学高所放水車	R1.6.18

品質評価 型式変更評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認年月日
消防用ホース	H 0125EC06B	芦森工業株式会社	平、合成樹脂、使用圧1.6、呼称50（シングル、 ポリエステル・ポリエステルフィラメント綾織、円織）	R1.6.18
	H 0125FC07B	芦森工業株式会社	平、合成樹脂、使用圧1.6、呼称65（シングル、 ポリエステル・ポリエステルフィラメント綾織、円織）	R1.6.18

認定評価 型式評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認年月日
スピーカー	認評放第 2019～6号	TOA株式会社	コーン型（1W/3W・L級）、 音響パワーレベル96dB	R1.5.30
	認評放第 2019～7号	TOA株式会社	コーン型（3W/6W・L級）、 音響パワーレベル96dB	R1.5.30
	認評放第 2019～8号	株式会社JVCケン ウッド・公共産業シ ステム	複合型（15W/30W/60W・L級）、 音響パワーレベル96dB	R1.6.4
2号消火栓	認評栓第 2019～1号	株式会社北浦製作 所	壁面設置型折畳み等収納式 呼称25（補助散水栓併用）	R1.6.10

検定協会だより 令和元年7月

検定対象機械器具等申請一覧表

種別	型式試験 申請件数	型式変更試験 申請件数	型式適合検定				
			申請件数	申請個数	対前年 同比(%)	対前年 累計比(%)	
消火器	大型	0	0	22	2,607	125.4	106.5
	小型	0	0	72	385,250	95.2	101.3
消火器用消火薬剤	大型用	0	0	1	36	24.7	163.9
	小型用			13	18,710	115.5	93.8
泡消火薬剤		1		21	92,840	76.9	62.0
感知器	差動式スポット型	0	0	30	234,657	81.7	91.1
	差動式分布型	0	0	11	6,858	82.2	87.4
	補償式スポット型	0	0	0	0	皆減	40.0
	定温式感知線型	0	0	0	0	-	-
	定温式スポット型	0	0	36	96,859	81.2	89.5
	熱アナログ式スポット型	0	0	7	4,774	73.5	109.3
	熱複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	イオン化式スポット型	0	0	0	0	皆減	68.3
	光電式スポット型	0	0	39	148,658	97.1	94.6
	光電アナログ式スポット型	0	0	17	54,667	114.7	94.3
	光電式分離型	0	0	5	200	56.3	70.2
	光電アナログ式分離型	0	0	1	100	166.7	125.8
	光電式分布型	0	0	0	0	-	-
	光電アナログ式分布型	0	0	0	0	-	皆減
	煙複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	熱煙複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	紫外線式スポット型	0	0	0	0	皆減	36.0
	赤外線式スポット型	1	0	8	730	235.5	237.0
紫外線赤外線併用式スポット型	0	0	1	274	98.9	66.2	
炎複合式スポット型等	0	0	0	0	-	-	
発信機	P型1級	0	0	13	21,102	68.9	64.4
	P型2級	0	0	8	4,456	71.4	69.0
	T型	0	0	0	0	-	-
	M型	0	0	0	0	-	-
中継器		1	0	97	37,449	98.5	118.5
受信機	P型1級	0	0	47	2,295	79.1	88.6
	P型2級	0	0	17	6,022	110.1	77.9
	P型3級	0	0	0	0	皆減	皆減
	M型	0	0	0	0	-	-
	R型	0	0	9	120	112.1	126.2
	G型	0	0	4	8	50.0	94.1
	GP型1級	0	0	12	25	208.3	106.5
	GP型2級	0	0	0	0	-	-
	GP型3級	0	0	14	47,411	111.7	128.0
GR型	4	0	14	256	175.3	144.0	
閉鎖型スプリンクラーヘッド		0	0	39	179,625	87.8	109.6
流水検知装置		0	0	37	2,278	92.5	89.4
一斉開放弁		0	0	20	1,917	179.0	113.2
金属製避難はしご	固定はしご	0	0	2	40	137.9	192.0
	立てかけはしご	0	0	0	0	-	-
	つり下げはしご	0	0	19	12,272	97.5	115.8
緩降機		0	0	3	460	135.3	95.7
住宅用防災警報器	定温式住宅用防災警報器	0	0	13	63,220	49.1	73.7
	イオン化式住宅用防災警報器	0	0	0	0	-	-
	光電式住宅用防災警報器	0	0	31	194,670	25.3	63.4
合計		7	0	683	1,620,846	67.1	84.4

※前年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

性能評価申請一覧表

特殊消防用設備等性能評価業務	性能評価申請件数	性能評価変更申請件数
特殊消防用設備等の性能に関する評価	0	0

受託評価等依頼一覧表

品質評価業務	型式評価依頼件数	型式変更評価依頼件数	更新等依頼件数	型式適合評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年同月比(%)	対前年累計比(%)	
補助警報装置及び中継装置	0	0	0	0	0	-	-	
音響装置	0	0	0	1	500	111.1	81.8	
予備電源	1	0	1	3	21,308	98.5	104.4	
外部試験器	0	0	0	6	117	162.5	104.1	
放火監視機器	放火監視センサー	0	0	0	1	367	91.8	92.3
	受信装置等	0	0	0	0	0	-	100.0
光警報装置		0	0	0	0	0	皆増	
	光警報制御装置	0	0	0	0	0	50.0	
消火器加圧用ガス容器	0	0	0	5	75,000	375.0	82.3	
蓄圧式消火器用指示圧力計	0	0	5	8	382,900	97.4	94.6	
消火器及び消火器加圧用ガス容器の容器弁	0	0	2	5	5,250	102.9	74.1	
消火設備用消火薬剤	0	0	0	6	85,489	81.0	84.4	
住宅用スプリンクラー設備		0	0	0	0	0	-	
	構成部品	0	0	0	0	0	-	
動力消防ポンプ	消防ポンプ自動車	0	1	19	29	126.1	125.0	
	可搬消防ポンプ	1	0	4	378	190.9	165.3	
消防用吸管	呼称65を超えるもの	0	0	2	450	180.0	85.9	
	呼称65以下のもの	0	0	2	50	166.7	106.7	
消防用ホース	平 40を超えるもの	5	0	7	15,494	95.2	60.5	
	平 40以下のもの	1	0	2	4	18,050	82.0	63.5
	濡れ	0	0	0	0	0	-	
	保形	0	0	0	3	5,500	122.2	117.8
消防用結合金具	大容量泡放水砲用	0	0	1	1	8	皆増	皆増
	差込式	2	0	1	27	63,812	64.5	67.5
	ねじ式	0	0	1	24	11,012	82.8	74.5
	大容量泡放水砲用	0	0	0	0	0	-	-
漏電火災警報器	変流器	0	0	0	5	2,550	89.2	117.9
	受信機	0	0	3	4	2,216	134.4	146.6
エアゾール式簡易消火具	0	0	0	1	9,990	42.9	41.0	
特殊消防ポンプ自動車	1	0	0	4	4	400.0	200.0	
特殊消防自動車				0	0	皆減	75.0	
可搬消防ポンプ積載車	0	0	0	0	0	-	皆増	
ホースレイヤー	0	0	0	1	3	27.3	27.3	
消防用積載はしご	0	0	0	5	146	56.6	61.3	
消防用接続器具	2	0	0	12	1,481	55.8	117.5	
品質評価業務				確認評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年同月比(%)	対前年累計比(%)	
外部試験器の校正				8	34	136.0	119.1	
オーバーホール等整備				0	0	皆減	110.0	

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

令和元年 6月

認定評価業務		型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
					依頼件数	依頼個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)	
地区音響装置		0	0	0	28	26,661	77.6	76.3	
非常警報設備	非常ベル及び自動式サイレン	2	0	1	50	5,394	77.6	77.1	
	放送設備	0	0	11	98	89,901	118.5	112.3	
パッケージ型自動消火設備		0	0	0	0	0	-	-	
構成部品		0	0	0	0	0	-	-	
総合操作盤		0	0	0	0	0	-	-	
屋内消火栓等	易操作性1号消火栓	0	0	2	10	3,120	99.7	97.6	
	2号消火栓	0	0	0	12	1,990	149.8	107.8	
	広範囲型2号消火栓	0	1	0	6	790	339.1	211.0	
	補助散水栓	0	0	0	0	0	-	-	
アズル		2	0	2	22	4,698	91.2	78.5	
認定評価業務		装着番号付与 確認評価 依頼件数		更新等 依頼件数	製品確認評価				
屋内消火栓等		0		3	1	13,000	64.4	66.5	
認定評価業務		型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
特定駐車場用泡消火設備		0	0	4	9	14,130	272.6	249.2	
認定評価業務	総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備	0	0	0	0	0	0	-	-	
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備・構成装置		0	0	0	17	17	130.8	144.1	
特定機器評価業務		総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価			
特定消防機器等		7	0	0	0	17	14,865	52.5	55.5
受託試験及びその他の評価		依頼件数			依頼件数	依頼個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)	
受託試験(契約等)		3							
受託試験(その他の契約等)					1	1	50.0	114.3	
評価依頼(基準の特例等)		0							

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

一昨年の7月は九州北部豪雨、昨年7月は、平成最悪の被害をもたらした西日本豪雨と、この時期は、梅雨前線の影響を受けて、豪雨災害が毎年のように各地で続いており、今年も九州南部地方に記録的な大雨が降って大きな被害が発生しました。お亡くなりになった方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

日本最大の前方後円墳「大山古墳」（仁徳天皇陵古墳）を含む「百舌鳥・古市古墳群」の世界文化遺産への登録が決まりました。国内では23件目、大阪府では初の世界遺産の登録で、地元の市や町では、観光への期待が一気に高まり、新たな取組みが始まっているようです。登録されて数年後のある世界遺産を訪れたときのこと、新設された広大な駐車場に車がまばらで、世界遺産の維持や環境保護と観光の両立の難しさなどを教えられました。

さて、今月号では、相模原市消防局長の青木浩様には巻頭のことばをご寄稿いただき、誠にありがとうございました。

8月号では、広島市消防局長の斉藤浩様には巻頭のことばを、消防庁予防課からは「屋外警報装置等の技術基準検討会報告書について」、消防庁消防研究センターからは「全国消防技術者会議の開催について」、住宅防火対策推進協議会（一般財団法人日本防火・危機管理促進協会）からは「住宅防火対策推進協議会の各種事業開催のお知らせ」、大阪市消防局からは「平成30年中の規制対象物における火災発生状況（その1）」をご寄稿いただき、当協会からは「平成30年度の検定協会決算概要について」、「設置後10年を経過した住宅用防災警報器に係る調査報告（概要）」などを掲載する予定です。

検定協会からのお願い

検定協会では、消防用機械器具等について検定及び受託評価を行い、性能の確保に努めているところですが、さらに検定及び受託評価方法を改善するため、次の情報を収集しています。心あたりがございましたら、ご一報下さいますようお願いいたします。

(1) 消防用機械器具等の不動作、破損等、性能上のトラブル例

(2) 消防用機械器具等の使用例（成功例又は失敗例）

連絡先 東京都調布市深大寺東町 4-35-16
日本消防検定協会 企画研究課
電話 0422-44-8471（直通）
E-mail
<kikenka@jfeii.or.jp>

発行 日本消防検定協会

<http://www.jfeii.or.jp>



本所 〒182-0012 東京都調布市深大寺東町 4-35-16
TEL 0422-44-7471(代) FAX 0422-47-3991



大阪支所 〒530-0057 大阪市北区曽根崎 2-12-7 清和梅田ビル4階
TEL 06-6363-7471(代) FAX 06-6363-7475



虎ノ門事務所 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-9-16 日本消防会館9階
TEL 03-3593-2991 FAX 03-3593-2990

検定協会だよりはホームページでもご覧になれます。

当該刊行物にご意見・ご要望・ご投稿がありましたら、本所の企画研究部情報管理課検定協会だより事務局までお問い合わせください。
e-mail: kikaku@jfeii.or.jp 専用 FAX 0422-44-8415

